



DKKYD

姫路獨協大学同窓会報

2001年8月15日

Vol. 8

特大号



写真:国際交流センターでの留学生ミーティング

■ 姫路獨協大学今昔物語 PART2

■ アンケート結果報告 Q&A 皆さんの質問にお答えします!

■ 各界で活躍! HDU同窓生!!

■ 交流深めるOB会 ~友情は永遠に~

姫路獨協大学 同窓会

〒670-8524 兵庫県姫路市上大野7-2-1
TEL (0792) 23-9263 FAX (0792) 23-9263

URL <http://www.hdud.gr.jp>

Eメール honbu@hdud.gr.jp

姫路獨協大学今昔物語 PART2

QUESTION

- Q1 創立当時の思い出 Q2 創立当時と現在の学生の違い
Q3 姫路獨協大学の現状 Q4 同窓生へのメッセージ

前回の会報発行以来、『姫路獨協大学今昔物語 PART1』をご覧になった会員の皆さんから、ハガキやメールで「懐かしかった」「感動した」「母校の現状を知ることができてよかった」といったお声が届くなど、かなりの反響がありました。それだけ同窓生の皆さんの母校、恩師への関心が高いからでしょう。そこで、今回も前回と同様に創立当時から教鞭を執る4人の先生方に、姫路獨協大学の過去を振り返ってもらうとともに、現在の状況を語っていただきました。

戸田 宏

経済情報学部
教授

昭和3年1月17日生まれ。大阪大学卒。京都大学理学部教授（昭和40～平成3年）、姫路獨協大学経済情報学部教授（平成4年～）。

Q1 私が姫路獨協大学に赴任したのは大学創立からしばらくたってからのことなのですが、当時は今ほど設備も恵まれておらず、今あるものでやりくりしていた感がありましたね。例えば私の授業ではパソコンを使うことが多いのですが、その頃はまだ旧型のPC-98を使っていました。今から考えると処理速度はかなり遅く、比べものにならないほど性能差がありました。使い慣れていたせいもあってか、それほど不便は感じませんでした。その後、新型のMacが導入され台数も増えてきたことを考えると、今の学生は恵まれた環境にいるのだなと感じますね。

Q2 当時の学生には一言で言うと“勢い”がありました。私が教鞭をとって

る数学は、文系の大学のなかでは少数派であり生徒の数も少なかったのですが、それでも私を探して追いかけてくる生徒が後を絶たなかったように記憶しております。それに比べると今の学生は控えめなのでしょうか、質問をしてもらうことも少ない気がしますね。そして今の学生に見られる傾向なのが、途中で辞めてしまう人が増えたことです。以前の学生のようにサークルやイベントに積極的に参加しようとしないうえ、友達を作る機会が少なく、おのずと授業も欠席がちになる、そんな生徒が増えてきましたね。ただ持っている能力は高く、期待した以上のものを仕上げてくる生徒もおりますので、それに獨創性を表現できればもっと面白くなるのではないのでしょうか？

Q3 大学も「冬の時代」と言われ、深刻な生徒不足が大学の間で問題となっております。実際、入試においても定員割れが起こるなど圧倒的な売り手市場となり、学生が自由に大学を選べる時代となりました。その状況下で姫路獨協大学を選んで入学してくれたわけですから、ここで何かをつかんで卒業をして欲しいと思います。そのため、我々も以前とは違ったアプローチを取りながら、学生の能力を引き出す必要があると思います。

Q4 私はあと2年で定年となりますが、気持ちはまだまだ若いと思っております。年齢に関係なくいろんなことに挑戦しようとする前向きな気持ちが本当に大切なのではないのでしょうか？ 社会に旅立った同窓生諸君、この先さまざまな困難が待ち受けていると思いますが、いつまでも若さを忘れずに頑張ってもらいたいと思っています。姫路獨協大学は人との出会いの場所だったと思います。ここでいろんなことを得たり、いろんなことを失ったりしたと思いますが、大学の4年間を時々思い出して訪問してみてください。

岡本 悌二

体育・教職課程
講師

昭和38年6月17日生まれ。日本体育大学卒。東京ガス（昭和61～63年）、姫路獨協大学一般教育学部助手（昭和63～平成7年）、同学部講師（平成7～12年）。平成12年から体育・教職課程講師に配置換え。

Q1 開学した昭和63年はまさに僕にとって人生の岐路に立つ大切な年でした。試合中のケガでノンプロ（社会人野球）の選手生活を断念せざるをえなかったその年、知人から姫路獨協大学の開学の話聞き、もともと指導者になりたかったし、自分の故郷に新設される学校であるという理由からこの大学にお世話になろうと決意しました。開学とともに教員人生をスタートさせた僕はまさに新入生と同じ。加えて学生と変わらない年齢（25歳）だったせいも、四六時中、兄弟のように学生たちと接していましたね。今でもよく覚えています。グラウンド整備やランニングなど、とにかく自分が先頭に立って行動し、学生たちと一緒に汗を流すことを心掛けていました。

Q2 開学当時の学生は個性的な子が多かったです。クラブの創設など先輩が誰もいない状況で苦労したとは思いますが、みんなイキイキしていましたね。教員生活の中で一番印象に残っているのはやっぱり彼らの存在です。それに比べて今の学生は硬式野球部の学生たちを例にとっ

ても、年々覇気がなくなっているように思います。実力的には当時の学生と比べものにならないくらい向上しているのですが、いかんせんアピール不足。こっちが言わないと動けない学生が多い。当時の学生は野球が下手でもアピール力があつたし、元気があつた。自分たちで野球を楽しもうという意識が高かつたですね。あと、できる子とできない子の能力の極端な二極化が年々進んでいるように思えてなりません。

Q3 少子化による志願者の減少が進み、本学のような地方の文系私学にとってはかなり厳しい状況です。そんな中、僕ができる最善の方法は、硬式野球部を鍛え上げ、好成績を残すことで大学の知名度をアップさせること。おかげで開学当時は10数名しかいなかった部員数が現在90名。毎年約30名の新入部員が入部してきます。春のリーグ戦で優勝し、念願の全国大学選手権大会に出場することが目標です。

Q4 僕が卒業式を迎えた学生にいつも言っていることなんですが、同窓生諸君の人生はまだこれから長い。厳しい状況が訪れることもあるでしょうが、チャレンジする気持ちをいつも大切にしていれば必ず道は開けてきます。大学時代の仲間は一生の友達。



合田 憲

外国語学部
教授

昭和20年3月13日生まれ。獨協大卒。学習院大大学院卒。獨協高校ドイツ科主任(昭和54~63年)姫路獨協大学外国語学部助教授(昭和63~平成11年)、同学部教授(平成11年~)。



Q1 僕自身が獨協大学の一期生ということもあって、姫路獨協大学の一期生諸君を見て、自分自身の学生時代と比較することが多かったですね。彼らにも僕たちと同じく、新設校の学生特有のパワーがあった。声を大にして言いたいんですが、自分たちの学んでいる大学を愛していたんでしょうね。卒業生に会って話をしても今だにそれを強く感じるがあります。ただ、学友会に関しては学生自身が身近な存在とは考えていなかったようで、設立時にはよく「自分たちのものなんだから自分たちで頑張ってみよう」とハッパをかけていましたよ。

佐々木典子

法学部
教授

京都大学卒。京都大学大学院卒。姫路獨協大学法学部講師(昭和62~平成2年)、同学部助教授(平成2~平成12年)、同学部教授(平成12年~)。



Q1 まだ、大学施設が全く建っていない整地の段階からよく下見に来ていました。雨の中、泥よけ用の長靴を履いたりして(笑)。今は住宅や店舗などがいっぱい建っていますが、当時の大学周辺は田や畑ばかり。正直、「本当にこんなところに大学ができるのかなあ」とかなり不安でした(笑)。開学直後の思い出という、図書館の本を集めるのがとにかく大変だったこと。当時はまだインターネットが普及していなかったので、資料収集、整理はすべて手作業。のりとはさみを使って切り貼りしたりして…。今の時代では考えられないですね。

Q2 一期生は「自分たちで大学を作るんだ」という意識がかなり強かったですね。やる気に満ちていて、自分たちでいろんなサークルを作った。やんちゃな学生も多くて、ゼミコンの時なんか私に向かって「僕は勉強は嫌いですがお酒には自信あるんですよ!」と言うやいなや、大きな器にお酒を注いでグビグビ飲みだす子がいたりして(笑)。とにかくみんな自己アピールが上手だった。それとは対照的に今の学生を一言で表現すると“指示待ち族”。こっちの言ったことに対しては素直に言うことを聞くという点では以前よりいい子が増え

Q2 どこの大学にも言えることなんですが、今の学生は当時の学生と比べて明らかにパワー不足ですね。これが全国的にクラブ活動が低迷している大きな要因と言えるんでしょうけれど…。加えて、物事を冷静に判断して行動するといった基本的な生活習慣が確立されていない。にもかかわらず、最近、「資格が取れなくて悩んでいる」という学生が非常に多い。昨今のパソコンや携帯電話の普及が影響しているのか、使い方をマスターするのは早いですが、それに自分の考え方や能力が伴っていない学生が年々増えているように思います。それに気づかなければいけないのは学生自身。大学は決して職業訓練校ではないのですから…。

Q3 どうしても学生中心の話になってしまうのですが、一言でいうと淡泊。それが今の学内の雰囲気にも現れているんじゃないでしょうか。授業はもちろん、就職活動や資格の取得に関しても、つまみ食いばかりしている。「ステーキを食べるんだったら、最後まで残さず食え」ってよく話をするんですが(笑)。大学の4年間って即効性の強いものではないと思うんです。よく学生や父兄から「いつから就職活動を始めたらいいいのですか」と質問されるのですが、勘違いしてほしくないのは、就職活動イコール資料請求や企業訪問ではないですね。人との接し方、きれいな文字の書き方など、家庭教育の時点からすでに始まっているんです。だからいつも「もう始まっていますよ」と答えています。教員側も学生にその辺りから伝えていくべき時ではないでしょうか。そうすることが大学の活性化につながっていくと思います。

Q4 常に母校のことを忘れないでほしいと思います。見守るという言葉はいい言葉なんですけど、それだけではなく母校の文句を言えるような人間でいてほしいと思います。同窓会に関しては、関東の獨協学園との交流をもっと深めてほしい。共同体である以上、本学にとって同窓会の存在が決してマイナスにはならないのですから。

たような気がしますが、自分たちからは何も言ってこないで、こちらからすれば何か物足りない。社会人になって人とのコミュニケーションを上手に取れるのかどうか、かなり不安ですね。

Q3 学生のマナーの問題が大きいですね。少子化といった社会現象の問題だけでなく、周りの環境が大きく影響していると思います。学生の学力や質の低下が問題視されている昨今、学生の現状を見て教員側がいろいろ解決策を模索していかなければならないと思います。補習に近いような講義を開講したり、就職支援講座を増やしたり…。法学部に関して言うと“法学部=司法試験=ムリ”と諦めてしまっている学生が多い。学生たちにはよく「先生はあなたたちの情報源。授業料を払っているんだから元を取らなければ損だよ」と話すんですが…。

Q4 同窓生のみなさんが大学時代は楽しかったといえるように努力していきたいと思います。大学生活が現在他方面で活躍中のみなさんの人生の糧になっていればこんなにうれしいことはありません。大学時代の勉強は同窓生にとってあくまでも出発点。今後ずっと“勉強”を続けてほしいと思います。

インタビュー後記

今回の「姫路獨協大学今昔物語」はいかがだったでしょうか? このインタビューを通じて、ありがたいなと感じることがあります。それは、どの先生方もいつも私たち同窓生のことを気にかけて、何かある時にはいつでも相談に来てもらって構わないと語ってくれていることです。長らく母校から遠ざかっている同窓生は一度、

お世話になった先生を訪ねてみてはどうでしょうか?

さて、次号の会報でも「姫路獨協大学今昔物語」は続きます。インタビューしてほしい先生や聞きたい質問などがあれば、同窓会事務局までご連絡ください。同窓生の皆さんの参加をお待ちしています。

アンケート結果報告

皆さんの質問にお答えします!

昨年12月発刊の同窓会報にてアンケート調査を実施しましたところ、同窓会や会報、大学への意見が多数寄せられ、同窓生の皆さんの関心が大きいことがわかりました。主だった質問、要望とそれに対する同窓会、大学側の回答を掲載します。

— Q & A — 同窓会編

Q1 「卒業生名簿は作らないのですか？」

A. 当面作る予定はありません。「クラスメイトと連絡を取りたいんだけど」という方のために、事務局では連絡取り次ぎサービスやクラス会・OB会の案内状の発送業務も行っていきますので、気軽にお問い合わせください。

Q2 「姫路以外の各地区で同窓会を開催する予定は？」

A. 事務局ではただ今、各地区での同窓会支部会を取りまとめてくれる幹事を募集しています。ご協力いただける方は同封のハガキに必要事項を記入して返送をお願いします。

Q3 「先生方の近況や現役クラブの活躍状況を詳しく知りたい」

A. 今後、大学や先生方、校友会と協力しあって同窓会のホームページ上でも公開できるように取り組んでいきたいと考えています。

Q4 「それぞれの立場で活躍している卒業生（特に関西以外の卒業生）の情報を載せてほしい」

A. 現在のところ事務局は姫路市内にしかありませんが、今後、全国に散らばる同窓生からルポライターを募集します。これもQ2と同じく、ハガキの返送をお願いします。

Q5 「インターネットをもっと活用しては？」

A. 今後、同窓会のホームページでもタイムリーな情報を発信していきたいと考えています。また、インターネットを通じて同窓会の運営に参加してくれるスタッフを募集しています。お手伝いくださる方は、同封のハガキにてお知らせください。



— Q & A — 大学編

Q1 「最近大学のPR活動が積極的に行われているように見受けられますが、まだまだ知られていないのでは？」

A. 本学は現在、JR姫路・明石・三ノ宮・大阪の各駅で看板広告、姫路、岡山、広島でバスポディ広告、兵庫県、中国・四国地方で定期的に新聞広告等のPR活動を行っています。しかし、最も効果のあるPR活動は、同窓生の「がんばり」です。皆さんの社会での活躍を大いに期待しています。

Q2 「少子化の時代に入り、入学志願者の激減、偏差値の低迷などで定員割れになり将来母校がなくなるのではと心配です」

A. 平成13年度の入試の結果は、入学定員880人に対して入学手続者は974人と定員の1.1倍になりました。さらに今秋、外国語学部31人の留学生が入学しますので、約1,000人の一年生が姫路獨協大学で学ぶこととなります。また、大学院につきましては、入学定員35人に対して46人が入学しました。ご心痛の定員割れの問題は本学にはありません。

兵庫県教育委員会のデータによりますと、これから高卒者は毎年2,000人ずつ減少し、5、6年先には47,000人程度まで下がると予想されます。この少子化対策として、本学は指定・公募推薦およびスポーツ特別選抜で、できるだけ多くの学生確保に努め、もって、学力水準の維持を図ることを入試の基本方針としました。この結果、13年度入試において、指定・公募推薦およびスポーツ特別選抜で608人を確保することができました。大学運営の最重要項目の一つは、入学者を安定的に確保することとともに、学生の学力の維持向上を図ることにあります。そこで、この基本方針は今後も踏襲したいと考えています。

偏差値についてですが、これは一般入試における入学者の



JR姫路駅のホームに掲げている看板広告

質が問題となります。ご承知の通り、本学は一時に比べ志願者が減少しており、ここに偏差値の問題がおきてきました。そこで、先に申した通り、指定推薦、スポーツ、センター試験に入試の重点を移すことにより、入学者の偏差値低下を防ぎ、質の向上に努めています。こうした結果、例えば経済情報学部の13年度一般入試（3月）においては志願者87人に対して合格者14人、倍率6.2倍と非常に「狭き門」になり、一般入試における偏差値のアップに繋がったものと考えています。

本学の財政状況ですが、開学以来、順調に財政基盤は強化されています。12年度決算では、流動比率（注1）は259.2%で、獨協学園全体の161.3%を、また総負債比率（注2）は5.6%と、学園全体の27.9%をいずれも大幅に上回っています。また、消費収支計算書（注3）においても、3年度から収入超過状態（長期的な支出超過は純資産を食いつぶすことになる）が続き、12年度は1,069百万円の収入超過となりました。加えて、開学以来、無借金で大学を運営しています。

なお、本学経理課において、学園および本学の財務諸表の閲覧ができます。

注1：一年以内に支払わなければならない流動負債に対して、現金預金または一年以内に現金化できる流動資産がどのくらいあるのか＝短期的な支払い能力を示すもので、高い値がよい。

注2：純資産のなかに他人資金がどのくらいあるのかを示すもので、低い値がよい。

注3：財政の永続的な維持を図るにあたっての資料を提供するもの。

Q3 「大変不景気な世の中ですが、現役生の就職活動が非常に苦戦しているのでは？」

A. 12年度の就職内定率は87.1%で全国平均とほぼ同じです。早くから就職活動を始めた学生は、東証一部上場会社をはじめ数社に内定するなど、顕著な実績を残しています。また、12年度には兵庫県職員に8名が採用されました。この採用実績は県内私大の中では3位以内の好成績です。さらに研究者や、よりすぐれた職業人を目指して東京外国語大学、大阪大学、神戸大学といった有力国立大学等の大学院進学者は25名におよんでいます。

12年度から、学生のキャリアアップを支援する就職支援講座（情報・語学・公務員関係）を教育課程の中に組み込み、その内容の充実を図りました。その結果、本年度はすでに地方公務員コースを受講した9名が兵庫県・大阪府警察官採用一次試験に合格しました。そのほか23名が一次試験に合格し、兵庫県においては一次合格者の約10%が本学学生や本学卒業生で占められています。このように多くの本学卒業生が警察官となり、「警察官になるなら姫路獨協大学」という評判がたちつつあります。この地方公務員コースには89名が受講しましたので、この7月から始まった「13年度の公務員試験」の結果が期待できます。

Q4 「大学に特色がないのでは？」

A. 新たな時代の要請の対応した創造性と国際性にすぐれた、優秀な学生を送り出すために12年度から教育課程を全面的に見直し、再構築してきました。このために、一般教育部を解消し、所属教員を各学部に分属させることとしました。さらに、13年度には外国語学部言語コミュニケーション能力を重視した従来の各学科に加えて、語学の枠を超えた国際文化を身につけることができる国際文化コミュニケーション専攻を開設しました。本年4月からは、語学の習熟度別クラス編成、多様な言語の授業提供（イタリア語、スペイン語、韓国語、フランス語）、 Semester制度の導入、情報処理科目の2年間にわたる履修の必修化、外国語会話能力の上達を目的とした、大学支援のもとでの全員参加型の海外語学研修派遣プログラ

ムの開発等々、教育課程の複合化と多様化の推進など大学の改革を大胆に進めています。

このような懸命な努力にもかかわらず、学科を単位としてながめたとき、12年・13年のドイツ語学科の入学者激減は、社会動向の結果を受け、やむを得ないとはいえ大問題であります。このため目下、外国語学部の見直しを構想しています。

本学もいよいよ創設15周年を迎えますが、これを機にかねてより要望されておりました剣道場、講堂および新IT時代に即応した情報処理教育設備を整備した周年記念施設の建設を計画しています。

なお、前述の全学学生参加型の海外語学研修につきましては、その実施に必要な資金の一部は「15周年を契機とした募金」で、と考えています。同窓生皆さんの絶大なる協力を仰ぐこととしておりますので、是非ともご高配を願いたいと思います。

Q5 「播磨地域にもっと根付いてほしい」

A. 全国初の公私協力の大学として創立をみたことを考えれば、地元との密着はさらなる重大事項であり、今後とも播磨学講座、外国語講座等を中心とする公開講座の実施等の地元への「知の還付」は本学の責任と考えています。

Q6 「スポーツが弱い。もっと全国レベルのクラブ活動をしてほしい」

A. 13年度入試から、ソフトテニス、剣道、硬式野球の3分野についてスポーツ特別選抜を実施しました。そして、14年度には弓道を追加しました。このスポーツ選抜対象種目について大学は①各種目1名ずつに1年間特別奨励金を支給、②監督、コーチの指導料給付を負担することとしており、各種目とも有力な監督、コーチの就任をみているので、近い将来、その成果があがるものと期待しています。



活躍中の硬式野球部

Q7 「ゴミやタバコを捨てて学生にモラルがない」「学生会館が有効に使われていない」

A. 最近の学生のモラル低下は感じています。しかし一方で、例えば弓道部の女子部員をはじめ多くの学生が校地周辺のゴミを自主的に拾っていると地元住民から好意を持たれています。

大学としては13年度中に講義棟の廊下改修工事を計画しています。そこで、これを機に講義棟は全面禁煙にします。また学生会館につきま

しては、1階のカフェテリアは学生の集まる場として、2階の会議室、3階のホール等については各団体が目的に合わせて有効に使っています。



学生会館1Fのカフェテリア

同窓会 TOPICS

「平成13年度 同窓会総会」のご案内

同窓会総会

と き／10月28日(日) 午前11時～
ところ／姫路獨協大学 学生会館 2F
※総会終了後の正午からは学生会館 1Fにて恒例の懇親会も催します。多数のご参加をお待ちしています！ もちろん費用は無料です。

志 湧 祭

と き／10月26日(金)～28日(日)
ところ／姫路獨協大学内

●初の卒業記念パーティーを開催

平成12年度の卒業式が行われた3月24日、同窓会主催の卒業記念パーティーを姫路市内のホテルで開催しました。初めての試みでしたが、総勢950人の卒業生と父母が参加、お世話になった先生たちと交歓するとともにビンゴゲームなどの企画でにぎやかな時間を過ごしました。



●同窓会事務局の新しい窓口は夏の甲子園優勝投手！



硬式野球部のコーチを務めている酒谷敏さんが、今年5月から同窓会事務局の委託職員になりました。酒谷さんは姫路市出身の24歳。平成5年には兵庫・育英高校の投手として夏の全国高校野球選手権大会を制したという、輝かしい経歴の持ち主です。平成12年に明治大学を卒業後に帰郷、3月から硬式野球部のコーチに就任し、阪神大学リーグの一部昇格を目指して部員の指導にあたっています。

獨協学園が創立120周年

1883年10月、東京神田に設立された獨逸学協会学校を源として出発した獨協学園は現在、3大学、2高校、2中学および1看護専門学校と合わせて8つの学校を擁する主要な私学のひとつとして発展しています。

21世紀最初の年である2001年、獨逸学協会は設立120周年を迎えたわけですが、2003年には獨協中学・高等学校が創立以来120年の歴史を刻むこととなります。それだけでなく、2002年に姫路獨協大学が創立15周年、2003年に獨協医科大学が創立30周年、2004年に獨協大学が創立40周年、2005年には獨協埼玉高等学校が創立25周年を迎えるなど、学園創立120周年を中心として各校が順次記念すべき年を迎えます。

このうち、2002年の姫路獨協大学創立15周年にあたっては、2001年度以降の入学者を対象として実施する海外語学派遣プログラムを円滑にするための国際交流基金(仮称)の設置、15周年記念施設の建設を予定しています。

●同窓会活動への参加のお願い

同窓会事務局では、会員間のコミュニケーションを図るためにさまざまな事業に取り組んでいますが、慢性的な人手不足に悩んでいます。そこで、これらの活動をお手伝いくださる運営委員を募集しています。我こそはという会員の方は同封のハガキに必要事項を記入のうえ投函してください。全国各地で同窓会支部を立ち上げ、お世話をしてくださる幹事も同時募集しています。

また、この度からルポライター登録制度を開始しました。登録していただいた会員の方には、事務局がご案内するテーマに従って会報用の原稿を提出していただきます(強制ではありません)。原稿が採用されたルポライターには図書券5000円分を進呈します。

●OB会の活動調査について

同窓会事務局では、クラブやゼミなど各種OB会に対して、その活動の主旨によって1団体につき年間2万円程度の活動資金援助をしています。希望されるOB会は事務局までお問い合わせください。申請用紙をお送りします。

賛助金納入についてのお願い

姫路獨協大学同窓会では卒業生の名簿管理や総会の開催、会報の制作などの業務に取り組んでいますが、毎年卒業生が増えるに比例して年2回の会報発送費も増え、いずれは会費だけでは賄いきれなくなります。このため、今回から会員の皆様より賛助金(一口1000円)を募ることとなりました。

会員の皆様には大変お手数ですが、同封しております振込用紙で最寄りの郵便局からご送金くださるようお願い申し上げます。

皆様から振り込んでいただいた賛助金が、会報発行など同窓会の大切な活動資金となります。何卒ご理解の上、1人でも多くの会員の皆様のご協力をお願い致します。

獨協学園120年のあゆみ

1881年	ドイツ文学を摂取し、我が国文教の興隆を図る目的で獨逸学協会が設立
1883年	獨逸学協会学校を設立
1947年	獨逸学協会の名称を財団法人獨協学園に変更し、校名を獨協中学校に改称
1948年	新製の獨協中学校・獨協高等学校が発足
1951年	財団法人獨協学園を学校法人獨協学園に改称
1964年	獨協大学を埼玉県草加市に開学
1973年	獨協医科大学を栃木県壬生町に開学
1974年	獨協医科大学附属高等看護学院(現在の看護専門学校)を開学 獨協医科大学病院を開院
1980年	獨協埼玉高等学校を埼玉県越谷市に開校
1984年	獨協医科大学越谷病院を開院
1987年	姫路獨協大学を兵庫県姫路市に開学
2001年	獨協埼玉高等学校に獨協埼玉中学校を開校

各界で活躍! HDU同窓生!!

プロの箏曲家として活躍

生田流箏曲宮城社師範

西川 かをりさん

「芸は一生。一生が勉強の連続です。芸の道に終わりはありません」ときっぱりとした口調で話す西川かをりさん（外国語学部・平成6年卒）は、「春の海」の作曲で知られる宮城道雄が興した生田流箏曲宮城社の師範です。お母さんの影響で幼い頃からお箏を弾いて遊んでいたという西川さんの古典芸能への造詣の深さは、大学1年生の時に友人を巻き込んで「邦楽研究会」を作ってしまったというエピソードにも表れています。そんな西川さんの学生時代のあだ名は“師匠”でした。



西川さんは大学を卒業後、NHKの邦楽技能者育成会を受講し、修了後は育成会で培った人脈を屋台骨に、流派の枠を超えて世界を舞台

に活躍しています。その活躍が認められ、昨年は大阪府文化振興財団から「舞台芸術奨励新人」に認定されました。大阪府の出身または在住でない人が認定されるのは異例中の異例のことです。続けざまに姫路地方文化団体連絡協議会から「黒川録郎賞」も受賞しました。

「西洋文化が氾濫する今の日本で、自分の国の文化の継承に取り組むことが異端と思われる風潮は残念。そういう意味で、来年から義務教育で邦楽の授業がスタートするのはうれしいですね」と語る西川さんは、地元・姫路市で「箏のかをり」「ひまわりサロンコンサート」を主催しながら、自宅の稽古場や小・中学校で後進の指導にも余念がありません。

箏のかをりvol.5

と き/9月21日(金)

18:30開場 19:00開演

と ころ/姫路キャスパホール

- 出演 西川かをり
- ゲスト 永廣孝山・坂田梁山・太田道嶺・原田きよか・望月太明蔵
- 司会 中井猛
- 曲目 「みだれ」「阿寒湖の畔」「手事」「鳩の海に」「さぎ草双紙」

幼い頃の夢を実現

北条鉄道運転士

大西 貴己さん

平成3年に法学部法律学科を卒業した大西貴己さんは、現在JR加古川線と神戸電鉄を結ぶ「北条電鉄」(加西市北条町 ☎0790・42・5211)に勤務しています。鉄道の運転士は大西さんの幼い頃からの憧れでしたが、大学在学中には、この職業に就くとは夢にも思わなかったそうです。大西さんは大学卒業後、地元の銀行に就職。約1年8カ月勤務しましたが、自分の肌には合わないと感じ退職しました。ちょうどその頃、現在の勤め先である北条鉄道が社員募集をしている記事を新聞で見つけました。願ってもない社員募集にすぐさま電話で問い合わせたところ、「まず一度来てみますか」との一言でアッサリと就職が決定。



自分の夢がかなった大西さんは、交通法規や整備・メンテナンスなど仕事に必要な知識をグングン身につけ、平成5年12月にはついに念願の動力車操縦運転免許を取得するにまで至りました。

「最初は自分の運転する車両にお客さんが乗っていることに、すごく

感動しました。自分のしたいことをやっているのが毎日充実感があります。でも些細な故障やトラブルがお客さんの迷惑につながるだけに強い責任感を感じますね」と表情を輝かせながら語ってくれた大西さん。これからも北条鉄道を利用してくれる乗客のために一生懸命、そして安全に走り続けます。



「中国のために貢献したい」

中国語教室講師

藤江 由佳さん

平成4年に外国語学部中国語学科を卒業した藤江由佳さんは6年前から「東方中国語教室」(姫路市白鷺町摺河ビル2階 ☎0792・82・3704)を開いています。藤江さんは、高校時代に単身香港へ旅行したことをきっかけに広東語の魅力に引かれ、高校卒業後は、揖保郡新宮町の自宅から通学できるという理由で同学部を迷わず受験したそうです。



1回生の時に自費で北京外国語大学に留学。当時の中国はあの天安門事件前で社会情勢が不安定でしたが、その時に多くの中国人と知り合えたことが、藤江さんの人生にとって「大きなターニングポイントになった」そうです。帰国後はひたすら中国語を勉強し、以来毎年のように北京に留学。4回生の時には学力、語学力が認められて文部省推薦で留学を果たしました。大学卒業後は商社に就職。その1年後には電気メーカーの北京駐在員として約2年間、主に商品の宣伝活動や店頭営業を行ってきまが、同僚たちとの仕事や金銭に関する考え方の違いに悩み退社。中国人のご主人と帰国し、日本人に中国のことを理解してもらい、同国の発展に少しでも貢献したいと中国語教室の設立を決意しました。

現在は講師のかたわら、企業の研修生の受け入れや通訳、ボランティア活動などご主人と多忙な毎日を送っています。

今、藤江さんは中国の歴史書「長城万里図第2図」を翻訳中です。同書に関するお問い合わせは日中21世紀翻訳会(伊井健一郎姫路獨協大学中国語学科教授 ☎0792・23・1968)まで。

鈴鹿 8 時間耐久ロードレースに出場

元自動車部主将

原田 洋孝さん

去る8月5日、鈴鹿サーキットで開かれた「8時間耐久ロードレース」に1人の同窓生が会場しました。元自動車部主将の原田洋孝さん（経済情報学部・平成7年卒）です。言うまでもなく、「8耐」とは全世界のモータースポーツファンが注目するバイクレース界の最高峰。その



レースの予選をクリアして決勝に進出したのだから並大抵ではありません。決勝に進出したのは上位66台のマシン。いざスタートすると転倒者が続出し、中には炎上するバイクも出るほどレースは荒れました。そんな中でも原田さんは着実に走り続け、28位という好成績でフィニッシュ。喜びもひとしおでした。

原田さんは、ふだんは姫路駅前の御幸通りにある実家の理髪店「BARBERはらだ」（姫路市具原町53番0792・22・7724）で腕を振るっています。気が向けばレース用車両を店先に展示しているそうなので、一度立ち寄ってみてください。

同窓会も応援しました!

この度の原田さんの8耐挑戦にあたり、同窓会としてもささやかながら資金援助をさせていただきます。同窓会では今後も、姫路獨協大学あるいは姫路獨協大学同窓会にとってプラスになるような活躍をしてください。同窓生個人に対して、でき得る限りの援助をしていきます。詳しくは事務局までお問い合わせください。



WELCOME to my COMPANY

株式会社ベンハウス

〈本社〉姫路市古二階町103番地 ☎0792・22・6660

昭和36年9月設立。オフィス環境のコーディネートを合言葉に、ステーションナリー、オフィス家具、OA機器、パソコン関連機器などを取り扱っています。



左から前田清隆さん（経情・H13卒）
黒川純人さん（法・H13卒）

前田さん「毎日できることから頑張っています」
黒川さん「ネットワークを通じて社会に貢献できるよう頑張っています」

アカシカグループ

株式会社赤鹿建設〈本社〉姫路市辻井1丁目1番23号 ☎0792・97・0883
株式会社赤鹿地所〈本社〉姫路市辻井1丁目1番23号 ☎0792・95・7774



後列左から：成定武彦さん（法・H3卒）、本田準一さん（法・H12卒）、
徳賀正義さん（法・H7卒）、池田貴敏さん（法・H3卒）
前列左から：山田竜也さん（経情・H8卒）、福永友紀さん（法・H7卒）、
佐々木泉さん（経情・H12卒）

昭和33年9月創業。公共施設・高層マンション・住宅などの設計・施工ならびに不動産全般を取り扱っています。

本田さん「不動産営業でがんばっています」
池田さん「土地、建物のことならおまかせください。同窓生からのお問い合わせ大歓迎です」

同窓生のお店

山手自動車整備株式会社

常務取締役 金沢智裕さん（法・平3卒）
姫路市野里247-1 ☎0792・89・8808
FAX0792・88・3058
（営）8時～19時30分（休）祝祭日



新車販売や車検、メンテナンス（カーコンビニクラブ加盟店）、保険（生命保険も受付）など自動車のことなら何でもおまかせの「山手自動車整備株式会社」。平成3年に法学部を卒業した金沢智裕さんは、この自動車整備会社の常務取締役です。金沢さんは、大学卒業後にいったん自動車販売会社の神戸営業所に勤務しましたが、4年前に家業である「山手自動車整備」に就職、現在に至っています。

「同窓生の方のご来店をお待ちしています。会報を持って来てくれた人にはサービスしますよ!」と金沢さん。自動車の購入やメンテナンスを考えているという同窓生はぜひどうぞ。

※ゴルフ部出身の金沢さんが主宰するゴルフサークル（会員数20人）では、サークル会員と金沢さん自身の対戦相手を募集しているそうです。詳しくは会社までおたずねください。

有限会社 パブリック不動産

代表取締役 森原紳太郎さん（法・平3卒）
姫路市三左衛門堀西の町23ドミール姫路201
☎0792・86・8660 FAX0792・86・8661
Eメール public@kisweb.ne.jp
（営）9時30分～18時（休）日曜、第2・4土曜



同窓会副会長の森原紳太郎さんは大学卒業後、大阪の不動産会社、姫路市内の建設会社勤務を経て、昨年7月に1人で「有限会社パブリック不動産」を設立しました。主に不動産売買の仲介、不動産活用コンサルティングを手掛けています。「会報を見てくれた同窓生には商売抜きで不動産のアドバイスをします」と森原さん。独立後は同窓会活動にも参加しやすくなったようで、毎週1回は事務局を訪れ、同窓会業務のお世話をしてくれています。

また、いつか同窓生でグループを作り北アルプス登山にチャレンジしたいそうです。北アルプスは中高年の間で人気の登山コースで、無理をしなければ男女問わず誰でも登れるそうです。興味のある方は森原さんまで。

※森原さんは、学生時代から姫路市太尾キャンプ場で子供会などが実施する夏休みキャンプのお世話をしています。各種団体でキャンプに興味のある方は姫路市教育委員会青少年課（☎0792・21・2791）まで。

有限会社 建築カナダ

取締役 吉原靖紀さん（法・平9卒）
神戸市垂水区小東山本町2丁目23-4
☎078・783・9900 FAX078・783・0099
（営）8時～18時（休）日曜



社内に建設中の
ログハウス

近年、コンピューターや機械の発達により、住宅がプラモデルのように建てられています。そんな時代の流れを嘆く吉原さんがお父さんが経営する工務店「有限会社建築カナダ」に入る上で、まず決めた事は「組み立て屋にはなりたくない」ということでした。

今は、在来工法をベースとしたオリジナルな家、個性的な家、こだわりの家を造るという信念のもと、設計から新築、リフォーム、店舗、塗装など幅広い建築工事に対応できるようになるため、資格取得の勉強に精を出している毎日だそうです。もちろん、技術的、金銭的な研究も怠りません。

「卒業生の中にも会社や店を営営されている方は多数いらっしゃると思いますが、その会社を運営する上で最も大切なことは“人のつながり”だと感じています。今後、この会報を通じて“人のつながり”が広がれば、とてもうれしいと思っています」。

交流深める OB会

～ 友情は永遠に ～

日本語学科第8期生
及び94年入学生
による同窓会

主要メンバー

上川貴由(日本語・平10卒)、
菊池恵輔(同)、森園淳代(同)、
中川貴行(同)



同窓会会員の皆様、はじめまして。我々は日本語学科第8期生を中心として構成しております「姫路獨協大学日本語学科第8期生及び94年入学生による同窓会」です。卒業前の学科同期生全員参加で行った卒業記念コンパの際、「同窓会を立ち上げよう」という話が起り、現在に至っております。メンバーは会の名称通り日本語学科第8期生及び94年度入学生が対象となりますが、今後は縦のつながりも深めていきたいと考えております。

活動内容ですが、まず年1回(主に夏頃)メンバーそれぞれの近況をアンケートし、それを冊子にまとめて郵送しております。年々アンケート解答者数が若干ながら減少しておりますが、冊子内容のさらなる充実のためにも末永くご協力を、メンバーの皆様にはお願いします。

また、1、2年に1回程度、先生方も交えた同窓会コンパを開催しております。実際に学生時代の旧交を深め、明日への気力を養っております。

この2つの活動が中心となっておりますが、日常的にはHPを開設し、メンバー間の意見・情報交換に一役買っています。
(<http://www.hat.hi-ho.ne.jp/j-ob/>)

特にHPでは国内外で日本語教師として活躍しているメンバーがレポートを掲載しており、現役学生への励みになればと願っております。また、掲示板(BBS)も設置しており、リアルタイムでの情報交換がなされております。

我々がこうして同窓会を立ち上げ現在もお活動しているというのは、簡単にまとめるなら「居心地のいい同窓生がいる」からだと思います。また、愛学心ならぬ愛「学科」心もあるからです。しかし、残念ながら大学全体の評判にプラスの志向のものを聞くことが、内側からですら少ないように思います。そのような学校には「退化」の道しか歩めません。我々は同窓生間の意志疎通も設立目的の1つにありますが、同様に日本

語学科の、ひいては大学の発展に寄与することも視野に入れております。今後、我々からも積極的に提言をしていけるよう、さらなる環境改善を望みます。

同窓会会員の皆様にも、今後とも拙会ならびに大学同窓会活動へのご理解とご協力をお願い致します。

自動車部 OB会

主要メンバー

原田洋孝(経情・平7卒)、
藤原鍾樹(同)

自動車部は初代部長の谷尾さんの熱意のおかげでレース部として体育会に承認され、活動を開始することができました。まずはラリーから始まり、広岡部長の代では全国学生自動車連盟主催のジムカーナ選手権女子の部で全国大会に出場しました。私の代になってからは皆の熱望通り関西学生自動車連盟を脱退し、本格的なサーキットへと活動の場を変えました。

それからというもの、主に鈴鹿、英田、MINE、ツクバと全国のサーキットを転戦するようになりました。基本姿勢として安全運転を心掛け、無事故無違反、違法改造厳禁をモットーに、あくまでも決められた場所でモータースポーツを楽しむ集団としてレース界で地位を確立できたと思います。後に続いた部長、部員たちも見事にその精神を引き継いで活動しているところです。彼らは、自分たちのレースがない日はサーキットのレース運営員としてボランティア活動しており、岡山の英田サーキットではなくてはならない存在になっています。こういう姿が社会に認められ、卒業後は主に自動車関係では一流といわれる企業で活躍しているOBも多数います。あるいは、OBからの就職アドバイスによって早期に内定をもらう現役部員も多数います。

今、一番の悩みは、自動車部にレース車両を保管するピットがないことです。他の大学ではディーラー並の設備があるのに彼らには屋根すらありません。現役生では発言力が弱いのでOB会も一致団結してこの長年の問題を解決していきたいと思ひます。

OB会のメンバーは現在31人。普段からサーキットでよく顔を合わせるので形式張った総会というものはいままで一度しか開いたことがありませんでした。また、OBだけでなく現役生も含めてお互いが出場するレースを支援しあったりして交流を深めてきました。しかし、卒業生の数も増えてきているので、より一層、縦横のつながりを強化していきたいと思ひます。今後は、年に一度定例会を設け、現役部員への指導や支援に力を入れていきます。



ゴルフ部 OB会

主要メンバー

岸田秀章(法・平3卒)、
西山元規(ドイツ語・平4卒)、
竹川英一郎(法・平7卒)、
神木智宏(経情・平8卒)



はじめまして。我々ゴルフ部OB会は第1期生の卒業後に発足したのですが、はや10年の月日が経ちました。発足当時は人数も少ないこともあり、OBと現役生との交流コンペというかたちで年に1回集まっていた。今では総勢60名を超える大所帯になり、開校10年を迎えた一昨年からはOBだけの姫獨杯というコンペもやりはじめ、あわせて年に2回の交流会を歴代の主将が中心となって開催するにいたっています。

現役生の方はというと、6期生のころからクラブも昇格していているのですが、同時にエントリーフィーや経費がかさんで困っていると聞きましたので、OBたちで会費を徴収して現役生への支援にまわすなどしています。大学には熱心なクラブや強いクラブにはどんどん力を入れて援助して欲しいものです。

これからも現役生との交流コンペとOBだけの姫獨杯は続けていきます。また、現役生が昇格やOBの方々活躍された時などは懇親会やパーティでも開ければと思っています。これからも大学やゴルフ部の発展にOB一同協力していきます。

ハンドボール部 OB会

主要メンバー

清原克三(法・平3卒)、
岩根浩司(同)、
山下勝幸(英語・平3卒)、
井田真代(同)、
平田真子(英語・平4卒)

私たちハンドボール部OB会が発足したのは約10年前。それ以来毎年、盆休みを利用してOBと現役生との交流試合を行っています。やはり現役生の体力には勝てず、何度やっても結果に結びつきません。それでも現役生にとって数少ない試合形式での練習は、試合前ということもあって大変貴重な経験になっているようです。その後はささやかではありますがOBが「焼肉食べ放題」を振る舞うので、現役生との交流が活発に行われます。毎年楽しみにしているOBにとって、なくてはならない年中行事の一つです。

OB会のメンバーは顧問の松田泰至先生を筆頭に約60名。地域のクラブチームに所属する人もいれば教員としてハンドボールを指導する立場の人も大勢いるというように、大半の人が今でも何らかの形でハンドボールと関わっています。しかし、その原点である姫路獨協大学ハンドボール部が今、危機的状況にあります。試合ができるギリギリの人数しかないということです。今後のOB会存続のためにハンド部が存続することは不可欠です。新入生の勧誘方法や部費、練習のこ

となどOBがさまざまな後押しをすることがハンド部の存続につながります。現在その一助としてコーチの派遣をしており、そのコーチがOBと現役生とのパイプ役を担っています。また、OBと現役生との交流の場として昨年、会員制HPを立ち上げ(ハンド部しか見られません)しました。まだまだ参加人数は少ないですが、今後の広報で人数を増やし、OB会の基盤となるものを作っていきたいと思っています。

これからの展開としては、OBではなく大学の補助を受けて専任コーチを招いて、もっと強いチームに成長し、OBの目標だった「3部昇格」を目指してほしいと思います。今後、万が一新入部員が入らずにやむを得ず廃部に追い込まれた場合、姫路獨協大学ハンドボール部としての歴史がそこで途絶えることとなります。それはOBにとっても大学にとっても悲しい痛手となるでしょう。

そこで要望があります。これはハンド部だけに限らず、他の部も願っていることだと思いますが、スポーツ特待入学者を迎え入れていただきたい。毎年1人入るだけでも4人の部員を確保できます。これは非常に心強いことです。昨今、大学の生き残り戦争などというゴシップをよく耳にしますが、手段としてのベンチャー的の改革を切に熱望します。

剣道部OB会 「美典会」

主要メンバー

中津博幸(法・平3卒)、
福嶋康司(経情・平6卒)、
加藤義隆(同)、
角本陽子(経情・平5卒)

剣道部OB会は平成6年に発足しました。当初はわずか10数名という少数で、活動といってもなかなか機能するまでには至らなかったのですが、今では50数名という大所帯になっています。ようやくOB会としての活動も板についてきたと言うのも変ですが、充実してまいりました。

現在のところ、月に一度、現役生との交流稽古会を設けて活動しています。これは、大学を卒業してしまうと現役生たちと疎遠になってしまいがちなため、少しでも多く現役生と接する機会を持つのではないかといいから始めています。また、OB役員会やOB全体総会なども随時開いています。さらに昨年度は、姫路市民大会、兵庫県民大会にOB会として出場しました。

これからは、現役生たちをさまざまな面で支えていきたいと思っています。そして、現役生たちが卒業してからも剣道が続けていけるように、私たちはよりよい環境づくりを目指し、人と人との和を大切にしながら、今後の活動を進めていきたいと思っています。

女子バスケット ボール部OB会

平成5年に発足し、平成11年からは現役学生との親睦ゲームや食事会を兼ねた同窓会を年1回開催しています。



●大学人事

姫路獨協大学の新しい学長に木村修三・前法学部長が就任しました。木村新学長は早稲田大第一政治経済学部卒業。参議院参事、同常任委員会調査員、神戸大法学部教授などを歴任。平成10年から姫路獨協大法学部教授、今春から法学部長に就いていました。



【退任】

外国語学部=清瀬義三郎教授、吉安光徳教授、木内孝教授、佐藤嗣二助教授、田中裕幸講師、木原義彦講師
 法学部=徳本正彦教授、福永文夫教授
 経済情報学部=石光亨教授、藤田正寛教授、鷹岡康夫助教授、木村康哲講師
 体育・教職課程=岸植夫教授

【新任】

外国語学部=白井智子講師
 法学部=家正治教授、川口浩一教授、志谷匡史教授、松本哲治助教授
 経済情報学部=伊藤駒之教授、中野勲教授

訃報

須田勇元学長が平成13年7月4日午後10時17分、永眠されました。

須田勇元学長



須賀有加子教授が平成13年5月3日午後6時30分、永眠されました。

須賀有加子教授

心から哀悼の意を表し、ここに謹んでお知らせいたします。

●就職課からのお願い

就職先が変わった方や卒業して新たに就職した方は就職課までご連絡下さい。皆さんのご協力、よろしく願います。

TEL/0792・23・6507

FAX/0792・23・9152

Eメール syushoku@himeji-du.ac.jp

●図書館からのお知らせ

図書館ではこれまで、図書の充実はもとより、蔵書検索用端末、パソコン機器の導入やCD-ROMなどの電子化資料の導入、利用を進めてきましたが、さらなる充実を図るために電子ジャーナルの導入も進めています。

現在閲覧が可能なのは、海外の出版社が発行する洋雑誌で、経済、経営、法律、歴史、言語、哲学、教育などの人文、社会科学を中心とした各分野で、図書館ホームページの「EBSCOhost」「オンラインジャーナル」よりアクセス可能です(利用は学内限定。図書館1階の研究・学習資料検索専用インターネット検索端末や同2階のAV室よりアクセス可能)。

このうち「EBSCOhost」については、フルテキスト収録分だけで約1700タイトルあり、「EBSCOhost」アブストラクトのみのものと「オンラインジャーナル」約60タイトルを加えると4000近くの雑誌が閲覧できることとなります。

※なお、平成11年6月より、地域に図書館を開放していますので(18歳以上の方)、卒業生は一般利用者として利用可能です。

姫路獨協大学播磨会からのお知らせ

播磨学特別講座

『姫路城400年の真実～天守閣、そして人、町、技…』

講談「播州皿屋敷」

講談師 旭堂 南海

実説「播州皿屋敷」

兵庫県立歴史博物館学芸員 香川 雅信

第七講
9 / 29

第八講
10 / 6

「城下町商人 那波屋と奈良屋」

関西学院大学文学部教授 三浦 俊明

第九講
10 / 20

「妙なる響きの向こうで～明珍家の興隆」

明珍52代 明珍 宗理

第十講
11 / 10

「発掘調査で分かったこと」

姫路市教委文化課技術主任 森 恒裕

第十一講
11 / 24

「華やいだ文芸の舞台」

播磨学研究所所長 橘川 真一

第十二講
12 / 1

「だれが城を残したか」

神戸新聞論説委員室顧問 中元 孝迪

会場/姫路獨協大学 303D教室

時間/午後1:30～3:30

受講料/3000円(第7講～第12講)

お申し込みは、はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、会員の方は播磨学研究所、播磨会のどちらの所属かを明記して、姫路獨協大学播磨会(〒670-8524 姫路市上大野7-2-1 ☎0792・88・5150)まで郵送してください。受講証をお送りします。

「姫路獨協大学播磨会」入会のご案内

「姫路獨協大学播磨会」では来年度の会員を募集しています。入会いただくと①講演会・市民教養講座・播磨学講座等、播磨会の各種行事案内②本学が開催する各種行事案内③一部講座の会費・入会金免除④播磨会関連事業の優先参加権の特典一を受けることができます。年会費は法人会費が1口30000円、個人会費が1口3000円。お問い合わせは播磨会事務局(☎0792・88・5150)まで。

編集後記

会員の皆様に有意義な情報を提供することを心掛けながら会報を毎号制作していますが、今回の会報はいかがでしたでしょうか。

次号からは全国の会員に情報提供を呼びかけ、今より広く多くの方々に同窓会を身近に感じてもらいたいと願っております。皆様も会報作りに参加してみませんか?

毎月1回の会議に参加できる方(交通費支給します)やインターネットで参加できる方(全世界から参加OK)など、スタッフを募集していますので、お気軽に事務局までお問い合わせください。また、同窓会や会報に対するご意見もどしどしお寄せください。

次号は正月に発刊する予定です。

2001年8月 同窓会副会長 森原紳太郎